

Highly Cited Researchers に本学から 11 名が選出

Highly Cited Researchers は、トムソン・ロイター社が、世界中で引用された回数の多い論文の著者を研究分野ごとに選出したものです。2015 年は、21 分野で約 3,000 名の研究者が、世界的に最も影響のある研究を行っている研究者としてリストアップされています。

大阪大学からは、5 分野で 11 名（12 件）が選ばれました。

<五十音順>

BIOLOGY & BIOCHEMISTRY

審良 静男 免疫学フロンティア研究センター・教授

CHEMISTRY

佐藤 哲也 工学研究科・招へい教授

三浦 雅博 工学研究科・教授

MOLECULAR BIOLOGY & GENETICS

吉森 保 生命機能研究科・教授

PLANT & ANIMAL SCIENCE

柿本 辰男 理学研究科・教授

IMMUNOLOGY

審良 静男

石井 健

坂口 志文

佐藤慎太郎

竹田 潔

邊見 弘明

山本 雅裕

免疫学フロンティア研究センター・教授

免疫学フロンティア研究センター・特任教授

免疫学フロンティア研究センター・教授

微生物病研究所・特任准教授（常勤）

医学系研究科・教授

免疫学フロンティア研究センター・招へい准教授

微生物病研究所・教授

未来基金グローバル化推進事業

（海外グループ研修助成金）による総長報告会を実施

2月8日（月）、大阪大学未来基金グローバル化推進事業（海外グループ研修助成金）の総長報告会が行われ、本事業に採択された学生グループ3団体<代表：柳川朔さん（文学部人文学科4年）ほか2名>、<代表：榊原美月さん（法学部国際公共政策学科3年）ほか2名>及び<代表：寺本将行さん（医学部医学科4年）ほか2名>が、西尾章治郎総長に自らの研修成果を報告しました。

西尾総長から、「この事業のことをぜひ下級生など次の世代に継承してほしい。学生には意欲的にどんどん海外に出かけて世界には様々な文化があることを実地に経験してほしい」と激励の言葉が送られました。



グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 合同発表会を開催

大阪府教育委員会および大阪大学は、2月13日（土）に同教委が指定する10校の進学指導特色校（グローバルリーダーズハイスクール（GLHS））の生徒による合同発表会を、豊中キャンパスの大阪大学会館で開催しました。

この発表会は、GLHSの生徒が人文科学、社会科学、自然科学の各領域に関する課題研究の成果を発表することにより、互いに刺激を受け、切磋琢磨し、学習や進路に関する意欲を高めるとともに、問題解決能力やプレゼンテーション能力を向上させることを目的として実施したもので、平成25年に双方が締結した連携協定に基づき、大阪大学での開催は4回目となりました。



「大阪大学リーダーズフォーラム」に 120 名が参加

「大阪大学リーダーズフォーラム」が2月16日（火）、豊中キャンパスの大阪大学会館で開かれ、約120名の出席がありました。

本催しは、大阪大学・大阪外国語大学を卒業後、ビジネスなど各界の一線で活躍するみなさまに、卒業生同士、また本学の教員や学生との交流を深めてもらうことを目的に、毎年開催しています。

通算4回目となる今年は、西尾章治郎総長による、2021年に向けた大阪大学のビジョンの概要紹介と大学近況報告のあと、吉川秀樹理事・副学長（産学連携、病院運営担当）が「医療事故から学ぶリスクマネジメント」のタイトルで講演。幅広い事例を引きながら、事故や失敗が起こる構造とリーダーの役割について語りました。

1954年法学部卒業の稲垣喬弁護士の前で乾杯ご発声で始まった交流会では、世代を超えた交歓が行われ、環境保全活動や起業に取り組む在学生2チームによるプレゼンテーションも盛んな拍手を受けました。和やかな中にも、阪大OB・OGならではの活力に満ちた会となりました。



「研究大学強化促進事業」の 平成 27 年度フォローアップにおいて、最高評価を獲得

平成27年度に実施された「研究大学強化促進事業」の初めてのフォローアップにおいて、大阪大学は最高評価の「特筆すべき進捗状況にある」との評価を受けました。（全22研究機関中、最高評価を受けたのは、本学と自然科学研究機構の2機関のみです。）

特に優れた点として、「リサーチ・アドミニストレーター（URA）のキャリアパス制度の整備が完了していること」や「多様な産学連携を推進し、成果を上げつつある Industry on Campus」]、「国際ジョイントラボ」などの取組などが評価されています。

本結果は、文部科学省ホームページ「平成27年度「研究大学強化促進事業」のフォローアップ結果について」（http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/1367633.htm）に公開されています。

大阪大学シンポジウム

「共創に向けた新しい協奏のかたち」を開催

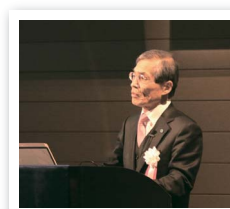
3月2日（水）、大阪大学シンポジウム「共創に向けた新しい協奏のかたち～オープン化が進む時代の「知」の役割～」をインターコンチネンタルホテル大阪で開催しました。

本シンポジウムは、社会の様々な分野で“オープン”をキーワードに新たな活動のモードが模索されている現代、オープン化が求められる諸活動のあり方や、そのもとで大学が担うべき役割などを展望し、大学教育・大学院教育の将来像を描いていくにあたり、産官学民、さまざまな立場の方々との対話を試みることをテーマとしたものです。平日の午後にもかかわらず、350名を超える参加者で会場はほぼ満席となり、テーマへの関心の高さがうかがわれました。

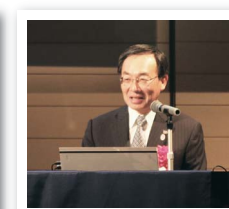
第一部の基調講演では、西尾章治郎総長から2021年に向けた新しい大阪大学のビジョンが示され、つづいてパナソニック株式会社 代表取締役社長の津賀一宏様よりオープンイノベーションの進展に向けた企業の取組みについてご講演いただきました。その後、超域イノベーション博士課程プログラム プログラムコーディネーターの藤田喜久雄教授から、新時代の博士人材育成についての取組報告がありました。

第二部では、オープン化に取り組まれている企業やNPO法人からパネリストをお招きし、本学教員を含む7名が白熱したディスカッションを行いました。オープン化に向けての工夫や実際の活動、課題などを示しながら、「オープン化を可能にするもの、阻害するものとは」、「オープン / クローズの線引きとは」といった議論や、オープンな場で大学が貢献できること、果たすべき役割についての意見が交わされました。

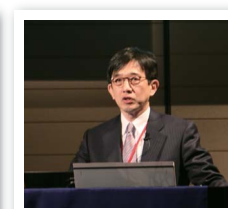
本シンポジウムを通し、新たな知の創造はもちろん、知の媒介者としての大学の役割を再認識するとともに、大阪大学、そして大学教育のこの先を「オープンに」議論する、貴重なはじまりの機会となりました。



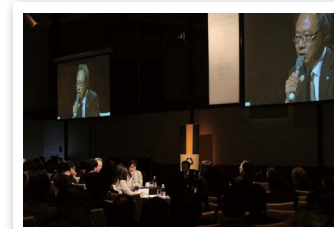
西尾総長



津賀社長



藤田教授



第 5 回サイエンス・インカレで大阪大学は全国最多の学生が 表彰されました

3月5日（土）～6日（日）、神戸国際会議場で文部科学省主催の第5回サイエンス・インカレが開催されました。

書面審査を通過した176組（口頭発表46組、ポスター発表130組）が発表を行い、大阪大学からも13組（応募件数は25件、応募件数・採択件数ともに全国最多）の発表があり、その中から5組が表彰されました。また、学生組織であるサイエンス・インカレ・アンバサダーによるサイエンス・インカレ・アンバサダー賞が今年から設けられ1組が受賞しました。